

文久四年二月一日より文久四年二月二日まで

P8311078 right

二月

朔日申 晴午前雲巻舒(\*1)夕前雪 驗温計 朝四十八(撰氏九)度、昼同断  
 暁第四字時小半[出立、宿内領主(戸田越前守)家来三人所々見送り、足軽両先導す、海屋新田  
 小休同所より、白沢駅遊歩を試む、途中日光山外三所の山を望む、山面積雪白望す

白沢駅小休(本陣造営中なりし)同所にも領主、前国家来出迎へり、同所 並此の奈辺(\*2)

人家は多<sup>半</sup> ■松を建つ

正月の如くす風習、また ■なり、二月朔の故なるべし、緒<sup>半</sup>川、阿久津川船渡し此の辺惣躰  
 砂漠の地にて、尺許の石密布し、其間に洛を送れり、此の家宿小休、同宿は近く群馬の災  
 ありし様子にて家作等、取片付し □の跡宿内の三分になれり、これにも前国家来出迎へり、第  
 (喜連川休)十一時午休所喜連川に着、同宿は存外 ■栄の様子也、曾根田小休(此間筆<sup>半</sup>)を試む、  
 佐久山小休(地頭福原内匠用人

町支配各所に出迎ふ、当宿人家多からざりも、美宅間の有の本陣も壯観也

P8311078 left

(太田原泊)四字時半前、太田原駅へ着、同所領を太田原飛驒守支配出迎へり、前文私領の外は  
 何れも足軽兩人 □先導す、宿駅手前より雪紛飛、当本陣の家作新にて、且美簾殊に  
 庭前流泉を引き其他雅趣あり、今明両日は里程十里分を出る故に一同慰労のため  
 本日に限り一杯を許して喫せしむ、然る処、一同旅中禁杯の趣に付、価銀を遣す

二日酉 晴烈風 同朝三十五(撰氏二)度 同昼四十四(撰氏七)度

暁第四時半頃出立、宿内の地頭、足軽兩人先導す、衾り □村小休、鍋掛宿小休、右本陣  
 にて箱館奉行の例を引て、自書画を望む帰洛を約し置、同宿は至て貧宿の様子にて、本陣も  
 殆ど破壊に及べり、鍋懸川を越へ両宿僅に六町を隔て越堀の宿也、是また貧宿の躰にて苟<sup>半</sup>  
 完の旅店両三 □を見らる □鍋懸宿、比すれば稍、 □れる □牛意<sup>半</sup>両宿至 □地近し、お □故に  
 両宿にて一宿の利を得る迄に、可有、島田金谷といへども距離壱里を隔て、且大井川の  
 差支あり

\*1: 卷舒(けんじょ)縮んだり広がったりすること

\*2: 奈辺(なへん)、どのあたり

( )内は細字双行(二行に小さい文字で二行書き)などの場合です。

□印は解読未了の文字です。私の実力ではすぐ解読できません。

【判読不可】、■は、文章の一部に汚れ、虫食いにより文字が無い等です。